

## 2010 年度 学校における子どもたちの主体的発言の現状と課題

## 学校における子どもたちの主体的 発言の現状と課題

教育学研究室 橋本紀子教授

保健養護専攻 高橋祐衣 田村苑美

## 課題意識

- 現代の子どもの現状  
現行の学習指導要領総則の中で言語活動の充実が求められている
- 教育実習での体験
- 学校での主体的発言の有無
- 沈黙が続く場面に遭遇したことがあるか

## 目的

- 学校における主体的発言の現状を調査・検討
- 沈黙が続く場面に遭遇したことのある者の調査・検討
- 発言しない理由の考察と課題把握

## 研究方法

- 関連資料及び文献の収集と検討
- 埼玉県、東京都の公立中学校に通う中学生を対象とした質問紙調査  
(予備調査を行いその結果を踏まえて本調査を行う)

## 先行研究の検討

## 1、主体的発言の背景

[授業における子どもの姿]

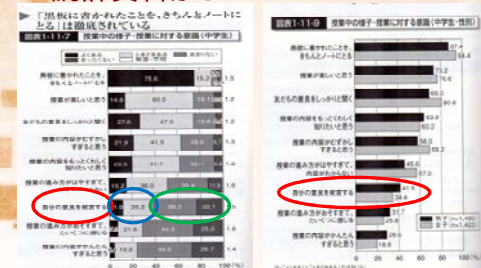
- 教師に問われないと自ら発言しようとしな
- よく発言して活躍する子どもに偏りがある

**[最近の子供たちの現状や抱える課題]**

- ・自らの意思や考えを相手にうまく伝えられない
- ・自分のよさがわからず、自信や意欲を失っている
- ・友だちとの好ましい関係が築けない
- ・相手の立場を理解できない
- ・自分自身をうまく表現できない

## 2、主体的発言の現状

—統計資料から—



## 質問紙調査の概要

### ➤ 調查目的

- ・中学生のクラスにおける主体的発言の有無、発言の開始時期などの具体的な傾向と現状を知る。
- ・クラスでの主体的発言と関係すると考えられる対象者の背景を知る。

## 質問紙調査の概要

**対象者:** 埼玉県の中中学校1校  
東京都の中中学校1校



图 - 1 学年

圖 - 2 性別

## 質問紙調査の概要

➤実施時期:平成22年10月、12月

➤調査枠組み:

対象者の属性  
対象者の背景に関する設問  
クラスで発言するかどうかに関する設問から、中学生の「主体的発言」の現状と傾向について  
沈黙が続く場面に通達したことがあるかの設問から、中学生の「主体的発言」の現状と傾向について  
対象者の背景と発言の有無の設問から、中学生の「主体的発言」に現状と傾向について

## 結果 発言の有無

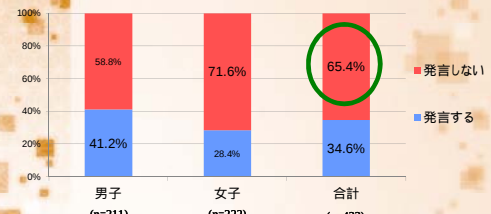
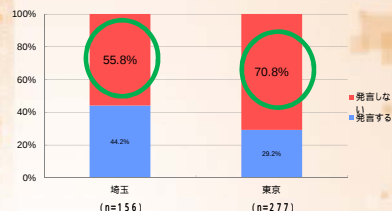


図1 :クラスで発言するかどうか

男女でχ二乗検定を行なったところ、5%水準で有意であった。

## 結果 発言の有無



学校別でχ二乗検定を行なったところ、0.1%水準で有意であった。

図2 :学校別 発言の有無

## 結果 発言の有無と背景

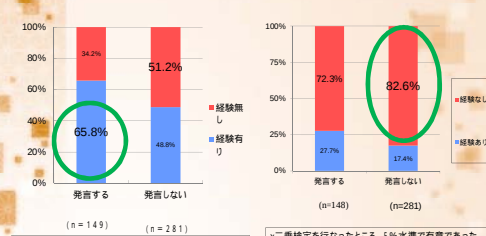


図3 :委員会経験と発言の有無

図4 :委員会・部長の経験の有無

## 結果 発言の有無と背景

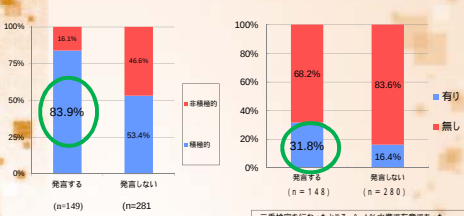


図5 :行事に積極的に参加するか

図6 :周りからの期待の有無

## 結果 発言の有無と背景

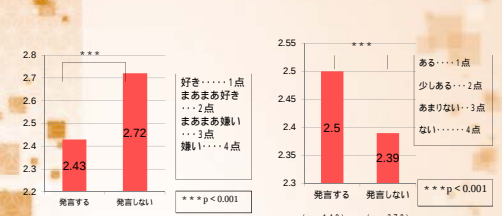


図7 :「発言の有無と自分の事が好きか」の得点平均値

図8 :「発言の有無と責任感がある方」の得点平均値

## 結果 発言(いつから)

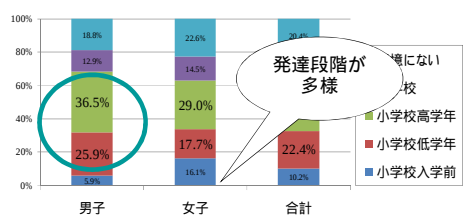


図9 : 発言するようになった時期

## 結果 発言しない(いつから)

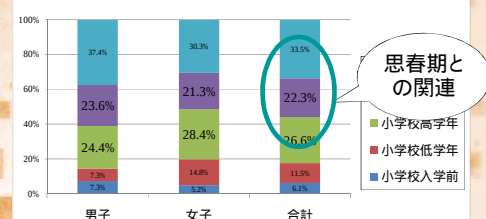
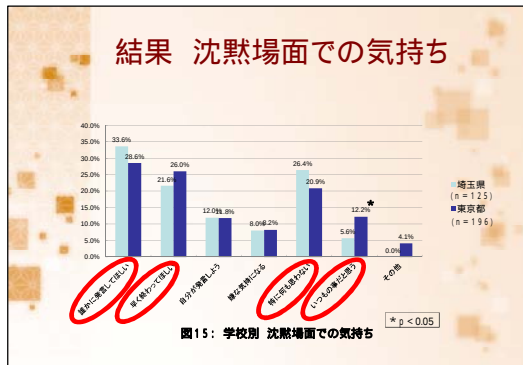
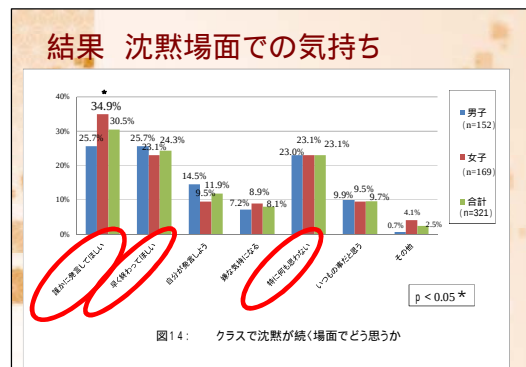
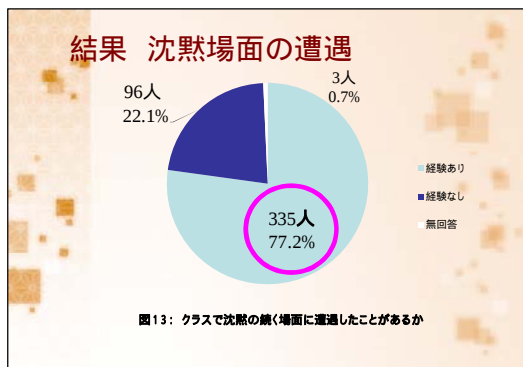
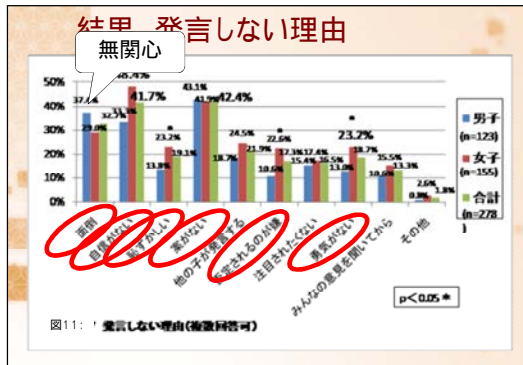


図10 : 発言しなくなった時期



### 考察

#### 1、主体的発言の現状

- 男女の発育の違い
  - 発言をする時期
  - 発言をしない理由
  - 沈黙が続く場面での思い

### 考察

- 調査対象の中学校差
  - 埼玉県の公立中学校A校・・・統合なし
  - 東京都の公立中学校B校・・・統合あり
- 発言の有無
- 発言しない理由
- 沈黙場面での思い

帰属意識の差

### 考察

#### 2、主体的発言と対象者の背景

- 委員会に入っている者
- 部長や委員長を経験している者
- 行事への取り組みが積極的な者
- 周りから期待されていると感じている者
- 自分が好きだと感じている者
- 責任感がある方だと回答した者

## まとめ

### 1. 全体のまとめ

- 中学生で授業中に主体的発言を行う生徒は少ない
- 中学生で授業中に主体的発言を行う生徒は少なく、女子より男子のほうが主体的発言を行う
- 主体的発言をする者は学年があがるほど減少する

## まとめ

### 2. 今後の課題

- 主体的に考える子どもたちを育てること
- 多くの生徒に役割を持たせ、一人ひとりが帰属意識をもち、物事に取り組む環境を作ること
- 自分のよさや自信を子どもたちに持たせること

## 引用・参考文献

- 板井哲夫 (1985) 『言葉を失った若者たち』 講談社
- 中央審議会答申 (1997) 『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』
- 文部科学省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chuuou/toushin/970606.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/970606.htm)
- 石井順治 (2004) 『学びあう学び、が生まれるとき』 世織書房
- 清水国昭 (2007) 『伝え合う力の育成—共同の学びと発表の場を通して—』 山形県最上郡戸沢村立戸沢中学校
- 渡辺良勝、山本城 (2010) 『言語活動の充実に関する研究—小学校における授業実践を通して—』 神奈川県立総合教育センター研究集録
- 小・中・高等学校学習指導要領 / 文部科学省
- 中学生高校生のライフスタイル資料集2006年版 (2005) 生活情報センター
- 子育て・教育子どもの暮らしのデータ集2004年版 (2004) 生活情報センター
- NHK放送文化研究所 (2000) 『現代日本人の意識構造(第五版)』 日本放送出版協会
- 小此木啓吾 (1981) 『モラトリアム人間の時代』 中央公論社
- 清水純子 (2006) 『なぜ日本の学生は授業中発言しないのか：文化的、言語的背景の考察』 <http://en.scientificcommons.org/49133299>
- 石本吉孝 (2008) 『魅力的な道徳の授業を進める指導の工夫』

ご清聴ありがとうございました。